

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

- 市民の創造力を生かした参加の受け皿を 1P
- 介括奨学生プログラム 2P
- 強度行動障害講師紹介 2P
- あらためて協働を考えるフォーラム 3P
- 連携・協働のためのコーディネーター専科「参加to実践」修了 3P
- インフォメーション 4P

市民の創造力を生かした参加の受け皿を

2024年度は、NPOと行政の協働の基本ルールとして発行された「あいち協働ルールブック」の20周年を迎えた記念すべき年でした。このルールブックによる協働を評価・検証する協議の場として設置されたNPOと行政の協働に関する実務者会議でフォーラム開催に向けて議論を重ね、今年2月10日に「あらためて協働を考えるフォーラム」が開催されました。当日は基調講演、報告、分科会の3部構成でした。会場となった愛知県社会福祉会館に集った約80名が早瀬昇さん(社福)大阪ボランティア協会理事



市民の自治意識について熱く語る早瀬昇氏

の講演に耳を傾けました。(本紙3頁参照)

第2部は、愛知県社会活動推進課榊原悟さんと(N) ボランティアネイバーズ三島知斗世さんより、協働に関する実態調査を反映した「愛知県の協働推進20年の歩みとその現在地」の解説によると、市町村とNPOの協働促進には、中長期的な課題に関するオープンな議論の場の設置を、またNPO全体の底上げには委託事業の積算や行政職員のNPO理解の向上を挙げられました。いずれも、市民活動センターを運営する中間支援組織の役割が鍵との報告がありました。

第3部では、市民の想像力を生かした参加の受け皿を増やす2つの事例を紹介、一つは、岡崎市西梅園地区でNPO・地縁組織・行政の協働による地域再生のプロセスを(N)岡崎まち育てセンター・りた天野裕さんがご報告され、もう一つは「共創を生み出す市民活動センターの可能性」をテーマに、北名古屋まちづくり推進課三宅健斗さんと指定管理事業受託者の(一社)ママライフデザイン研究所田口さおりさんより、昨年10月にオープンした市民活動センターμベースについてご報告いただきました。



三宅健斗氏(写真左)と田口さおり氏(写真右)

北名古屋市では、2町合併後の旧図書館リノベーションの設計から施工までを市民が関与し、家具作成等

の作業と対話を重ねながら「自分たちの場所」という意識が育まれています。子育て世代や中高生も賑わうμベースでは今、視察を受け入れられていますので、北名古屋市へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

さて、東浦町では、(認N)絆が市民参加の受け皿を次々と広げています。3月8日に、個人が本棚の一角のオーナーとなって蔵書を並べる一箱本棚オーナー制度「ひと・はこ文庫」を始めました。このプロジェクトも設計から板の切り出し、組立を市民参加で行い、延べ126人もボランティアが汗を流しました。オーナー希望者はもちろん、居場所づくりや参加支援事業関係者も必見です。(認N)絆電話0562(83)7563 へご一報ください。市野恵



2025年度 通常総会・会員交流会のご案内

- 日にち 2025年5月28日(水)
会 場 知多市民活動センター2階会議室
通常総会 10:00~11:00
会員交流会 11:30~13:00(立食/会員のみ無料)
13:30~15:00(講演/参加無料)
「新たなまちづくりの扉とは」(仮題)

■高校生介拓アワード2024開催

介拓奨学生プログラムに参加した高校生が、これまでの学びや経験を発表する場「高校生介拓アワード2024」が3月8日、日本福祉大学東海キャンパスにて開催され、参加者66人が、奨学生5人の発表に耳を傾けた。

発表では、「アルバイトで入浴介助の仕事を行い、職員の皆さんに頼ってもらえたことが嬉しかった。今後は専門学校で社会福祉士を目指していきたい。」「様々なフォーラムで自身の発表を行い、人前で話すことが好きになった。誰に対しても優しく寄り添える介護福祉士になりたい。」など、人との出会いで成長した様子や将来の目標が語られた。審査の結果、最優秀賞は伊藤孝子さん（高3）、優秀賞は畠中広夢さん（高3）が受賞した。

アワードの参加者からは、「様々な人との関りで自己理解しながら、成長した姿が印象的だった」という感想があった。（山森）



アワード受賞後の集合写真

■介拓ルーキーライセンス講座新設

本プログラムでは、高校生を対象とし、現在まで52名が初任者研修資格を取得、その内30名が奨学生として介護事業所でのアルバイトを通じて、実務経験を積んでいる。研修は夏休み期間に開催しているが、研修と学業・部活の両立が難しく、参加できない学生がいたことや、さらに、この取り組みを重ねる中で、一人ひとりの特性に応じて丁寧にキャリア形成を支援する必要性を感じたことから、今年度より短期間で取得可能な独自のコース「介拓ルーキーライセンス」を新設した。そのねらいは、以下の3つである。

- ・介護の楽しさややりがいを知るための入口。
- ・ひとり一人の資質や適正を見つける。
- ・介護職のアルバイトが、資格取得やキャリア形成につながる実践的な経験であることを知る。

3月24日にスタートしたルーキーライセンスでは、高校生5名が参加し、キャリア教育や介護福祉に関する講義2日間と介護事業所でのインターン実習2日間を経



支援の様子を見守る実習生

て、ライセンスを取得した。今後は、アルバイトや介護職員初任者研修へつなげていく。（山森）

強度行動障害支援者養成研修 講師紹介

当法人主催「強度行動障害支援者養成研修」では、支援現場の実践者を講師として招聘しています。そんな講師陣の横顔をリレー形式で紹介します。社会福祉法人愛光園ひかりのさとファーム 稲生直幸さんです。（山森）

【団体の概要、仕事内容は？】

知多半島の付け根に位置する東浦町を中心に未就学期から高齢期まで幅広い方を支援している法人で、昨年50周年を迎えました。普段は同法人の「ひかりのさとファーム（生活介護・就労継続B型）」で、レストラン・養鶏・珈琲焙煎等の生産活動を中心に、障がいのある方の“働く”事をサポートしています。



【現場支援で大切にしていることは？】

ご本人の障がい特性に配慮した環境調整や介入を行うにあたり、事業所内だけでなく生活全体や将来の暮らしに繋がる様、支援の目的意識をチーム全体で共有してサポートする事を目指しています。

【受講生に持ち帰ってもらいたいことは？】

どんな状態・状況でも“困っているのはご本人”であり、日々関わる私たち自身が変化することが大切だという気付きを持ち帰って頂きたいです。研修の内容やグループでの意見交換を通して、自分が変化するためのヒントは沢山あります。この研修を自分が変化する機会にして頂けると嬉しいです。

【団体からのお知らせやメッセージ】

自然食レストランの営業やオリジナルブレンドの焙煎珈琲の販売等を行っています。4月からはリキッドコーヒーの販売も開始されます。よろしければレストランにお立ち寄り下さい。

<ひかりのさとファーム レストラン>

知多郡東浦町緒川下米田37-4

TEL：0562-84-4151

営業日：月曜～金曜（9：30～16：00）

Instagram：hikari nosato. farm

■愛知県「あらためて協働を考えるフォーラム」を開催

「あいち協働ルールブック2004」発行20年を記念し、2月10日「あらためて協働を考えるフォーラム」を開催。基調講演として、(福)大阪ボランティア協会 理事長 早瀬 昇氏が登壇された。以下、講演の内容を紹介する。

「市民 お客様化」社会の病い

みんなで作る公共が崩れ、「自治の主体」であるはずの市民が「顧客化」しだしている。映画監督の想田和弘氏の著書を引用し、日本の民主主義の原点であった「みんなのことはみんなで議論し主張や利害をすりあわせ、みんなで決めて責任を持つ」という考え方が、薄れてしまったと話す。

1989年、岩国哲人出雲市長が「行政は最大のサービス産業」を提唱し、行政サービスの利便性向上を目指した。いわゆる「お役所仕事を変えよう」という考え方が全国に広まり、さらに、1987年の国鉄民営化を背景に、新自由主義政策が進展し、公共サービスは企業による提供が主流となり、市民が「お客様化」してしまったと言われている。かつては、共同作業所や共同保育所など、市民が主体的に運営する場が多く存在した。しかし、現在ではトラブル回避を優先し、現場でも監視的な運営が進み、市民間の信頼や自主性が損なわれている。

「協働」とは、「共に働く」という意味であり、行政・企業・NPOがそれぞれの弱みを補完し合い、信頼関係を築く中で課題解決を目指すものである。その本質は、個々が持つ特性や創造性を活かし合うことである。市民は、企業や行政にはない、遊び心や創造性を活かしたアイデアを提供できることが強みである。これには効率を超えた価値があり、公共サービスの新たな可能性がある。さらに、市民活動への参加は、第三者の立場から「当事者」として意識を切り替え、育むきっかけとなる。つまりNPOは、社会課題を自分ごととして捉えられる市民を育成する役割を担っている。

市民活動へ参加者を促進するためには、市民自身の内面から生まれるやる気、すなわち内発的な意欲を高めることが重要である。そのためのポイントとして、以下の3つをあげる。

①自ら選択・企画を行える環境を整え、「任せる」ことで「自律性」を高める。②やる気がある無しではなく、できた経験がやる気を生み出すため、「熟達」できる状況をつくり出す。③主体性・自発性を持って取り組むための「出番」をつくる。

行政とNPO協働の根本的な目標は、「お客様」ではなく「当事者」としての意識を持つ市民を増やすことである。NPOは、市民参加の舞台としての役割を果たし、人々に「参加する楽しさ」を体感させることが重要である。その結果、当事者意識を持つ市民が増えることが期待される。

講演の最後に早瀬氏は、市民が自治的に課題解決や地域創造を進める社会を築くためには、NPOが市民の参加を高めるプログラムを創出することが必要であると述べ、講演を締めくくった。(安藤)

■連携・協働のためのコーディネーター専科「参加to実践」修了

本事業は、(N)ボランティアネイバーズ、(N)ボラみみより情報局、当法人の三者で構成された、あいち協働事業サポートセンターが、愛知県からの委託を受けて実施。本事業では、NPOと大学・企業など多様な主体との連携・協働を促進することを目的とし、行政職員や市民活動センター職員を主な対象に、連携・協働を推進するコーディネーターに必要なスキルとノウハウを現場体験を通じて学ぶ全5回の研修を行い、1月15日に無事修了した。研修で学んだポイントを以下に紹介する。

本研修で全体ファシリテーターとして指導された、加藤武志さん((有)まち楽房)は、連携・協働のためには、それぞれの強みを活かしながら協力して共通の目的を達成することが重要であると話す。そのためには、「目的の共有」「相互理解」「対等な関係」「自主性の尊重」が不可欠であり、ONE TEAMであることが求められる。こうした多様な担い手をつなぎ、協働環境を整えるため、コーディネーターには、以下の様なスキルが必要である。

- ①情報収集力(地域資源や課題の把握)
- ②対話力(相手を理解し、成果を見出す)
- ③プロデュース力(計画立案・資源調達・進捗管理)
- ④記録力(ノウハウの蓄積し、継承する)
- ⑤発信力(成果を広く共有し、共感を得る)

人は「おトクだから」動くという視点を重視し、カジュアルな環境や、コーディネーター自身が楽しむことで参加を促し、安心して対話できる場を設け、目的・ビジョンを共有することで「当事者感」が高まり、活発な議論と交流が促進する。また、「スモールスタート」で「トライ&エラー」を重ねることがスキルアップの第一歩となる。

研修の内容をまとめた報告書は、あいちNPO交流プラザのホームページで見ることができる。(安藤)

HP URL: <https://www.aichi-npo.jp/topics2030.html>

サポちた インフォメーション

会員のみならずから集まる情報を掲載しています。お気軽に情報をお寄せください。

■ 棚園氏講演会「不登校の先にある未来」 ～まわりの大人にしてほしいかったこと～開催

元不登校の漫画家である棚園正一氏に、不登校の頃の気持ちや親御さんや先生、友達との関係、現在についてお話していただきます。

〈日時〉2025年5月17日(土)14:00～17:00

〈会場〉東海市立市民活動センター 大会議室

〈参加費〉高校生以上1,000円(小中学生無料)

〈申込〉下記のフォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/xS7eeGyChdLFUU5Z9>

〈問合せ〉(一社)子どもねっこ育社 担当/佐治

Info@kodomone.website

■「あいち協働プラットフォーム」オープン

連携・協働し課題解決に取り組むことを考えているNPOや企業、大学等を見える化し、マッチング機能を有したデータベースである「あいち協働プラットフォーム(愛称:あいプラットフォーム)」が、2025年4月1日から運用を開始する。NPO、企業、大学等の皆様の登録をお待ちしています。

また、同時に、あいちNPO交流プラザのホームページもリニューアルする。是非、ご覧ください。

〈登録サイト〉<https://www.npo-plaza.pref.aichi.jp/register>

〈あいちNPO交流プラザ〉

<https://www.npo-plaza.pref.aichi.jp/register>

■愛知県「子ども食堂食材費高騰対策支援金」

〈対象者〉以下の①から②までを全て満たす方。

①2025年2月28日時点において、愛知県内で子ども食堂を運営している方。

②2024年10月1日～2025年3月31日に、2か月に1回以上の頻度で開催した実績がある方。

〈補助額〉開催日数に応じて、定額で交付。

・週1回以上開催の子ども食堂(区分A) 14万円

・週1回未満開催の子ども食堂(区分B) 7万円

(2025年2月に新規開設した子ども食堂は開催回数に関わらず補助額は7万円)

〈申請受付期間〉2025年3月14日～4月11日迄

〈申請方法・様式〉申請書一式に必要な事項を記載の上、愛知県電子申請・届出システムへ申請。

〈問合せ先〉県福祉局児童家庭課子ども未来応援グループ
※詳細は以下のホームページよりチラシをご確認ください。

https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/570380_2620943_misc.pdf

■みずほ教育福祉財団「ボランティア活動資金助成事業」

ともに生きる地域づくりにつながるボランティア活動に対して、備品購入をはじめ、必要となる資金を助成。

〈助成対象団体〉5名以上で活動し、かつ営利を目的としないグループ・団体であり、活動実績が3年以上(2025年3月末基準)。※法人格の有無は問わない。

〈対象活動〉区分A:高齢者、障がい児者の支援に係るボランティア活動、区分B:子ども食堂等の居場所づくりや運営に係るボランティア活動

〈助成内容〉総額1,200万円(予定)1件あたり5万～15万円

〈選考の主なポイント〉地域共生社会の推進に向けた活動内容の具体性と期待される助成効果

〈応募期限〉2025年5月23日(金曜)必着

〈応募方法〉両区分いずれも、都道府県・指定都市または市区町村社会福祉協議会、あるいは、行政からの推薦を受け、財団に直接郵送。

※詳細は、以下のホームページをご確認ください。


みずほ教育福祉財団URL

<http://www.mizuho-ewf.or.jp/index.html>

■「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」にサポートちたもエントリーしました!

毎月11日に、イオンでのお買い物時に受け取る黄色いレシートを、店内の支援したい団体のボックスに投函していただくことで、レシート合計の1%分の品物を、イオンが各団体に寄贈する取り組みです。イオン常滑店にお買い物の際は、ぜひサポートちたへご投函ください!

〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
Tel 0562-33-1631 Fax 0562-33-1743
Email spchita@ams.odn.ne.jp
HP <https://sunnyday-cfsc.ssl-lolipop.jp/>

 特定非営利活動法人
地域福祉サポートちた



手づくりカフェ Ada-coda シェフ募集

日替わりで市民が自分の思い通りのランチをつくり、お客さんに提供します。食品衛生責任者が常駐するので、初めての人でも安心して料理に専念することができます。詳細はサポートちたまでお問い合わせください。 担当/落水